

平成22年度予算審査特別委員会（総務財政分科会） 西てつし発言分

◆西 委員 民主党・市民連合の西でございます。今回の予算審査特別委員会総務財政分科会では、今回議論になってます予算の内容、特に編成プロセスについてお聞きをさせていただきたいと思っております。

まず冒頭少しお尋ねをさせていただきたいんですが、事業仕分けについての議論。先ほどもありましたけれども。実は、事業仕分け、本会議で何度か申し上げておりますけれども、事業仕分けというのは御存じのとおり、登録商標されたものであります。その中で、全国の事業仕分けを見てますと、大阪版事業仕分け、堺版事業仕分けということだけ、版という言葉が出てきまして、ほかは事業仕分けという言葉が使われておまして、登録商標なり、そういう商標と言いますか、ブランドマークとかいう仕事に関わってきた身としてはまず、登録商標ということは気になるんですけども、堺版事業仕分けと登録商標されている事業仕分け、違いがあるのかなのか、登録商標を使われるのであれば堺版ではなくて、一般的な登録商標である事業仕分けという言葉を使われるべきだと思いますが、お示しをいただけますでしょうか。

◎井野 経営監理室次長 委員お尋ねの堺版事業仕分けの堺版ということなんですけども、これにつきましては、大体3点ぐらいがポイントかなというふうに思っております。

まず、仕分けにつきましては、仕分け人に市民を、判定委員にも市民が入っていただくということと、それとこれについては一般市民の無作為の抽出によって、一般市民から同意を得た方から選ぶということ。それともう一つは判定につきましては、単に要、不要だけではなくに、例えば不要となりましても、やめるにしましてもどういったやめ方があるのか、こういったところまで議論していただく、その上で判定していただく。また改善という結果になりましても、どういった改善の方法があるのか、どういった改善をしていくべきなのか、こういったところまで議論した上で判定していただくというふうなことを考えております。

それと、事前の研修、こういったものも実施していきたいというふうに考えております。以上でございます。

◆西 委員 構想日本が定義をしている事業仕分けと違うのか、違わないのかをお示しいただければと思います。

◎井野 経営監理室次長 大枠的には構想日本がされておられます事業仕分けと、考え方については大きな違いはないと思います。ただ、一番大きいのは先ほども申し上げましたように、単に要、不要、例えば改善、国でやっておられるような市町村とかにおおろすとか、そういった形だけではなしに、例えば先ほども言いましたけども、改善するのであればどういったところまで改善するのかという踏み込んだ議論をしていただくと、こういうところが一番ポイントになるかなというふうに思っておりますので、構想日本とどこが違うのかと言いますと、まるっきり何もすべてが違うというわけではないと思いますが、そういった点で特徴があるというふうに考えております。

◆西 委員 今おっしゃったことは実は構想日本の事業仕分けの中で、各地で見られることの一部の事例と重なってる部分も多々あります。堺の議員でありながらこういうことを申し上げるのは恐縮ですけれども、事業仕分けという言葉がひとり歩きますと、その定義は何なんだという話になりますので。これは市民の皆さんなり議員なりが考えるのは、基本的にはテレビもしくは新聞報道をもとにして見てきた事業仕分けなものですから、同じなのか同じでないのか、それはしっかりと定義をしていただかないと、事業仕分けという言葉だけが独り歩きすると思いますが、いかがでしょうか。

◎井野 経営監理室次長 おっしゃるとおりでございまして、事業仕分けという言葉を一応使わせていただいております。堺版とつけさせていただいたのは、本来の一般的に皆さんが目にしておられる、特に国なんか公開でされました、テレビでやっておられましたそういった事業仕分けとは違うということをあらわしたいという意味から堺版事業仕分けという言葉を使わせていただいております。ただ、この堺版事業仕分けでこのまま最後まで実施するかどうか、ここはまだ決まっております。まだそういった意味合いで中身でもっと適当なネーミングがあれば、そういったものも検討したいなというふうには考えております。以上でございます。

◆西 委員 ぜひ研究をしていただきたいと思っておりますし、皆までは申し上げませんが、事業仕分けという言葉はしっかりと定義をしていただかないと、本当に誤解がたくさんありまして、構想日本が定義する事業仕分けは何なのか。それじゃなくて堺版オリジナルが何なのか。それを定義していただいて、オリジナルなのであれば、それは事業仕分けという登録商標からは違うと思っておりますので、そのところはしっかりと研究をしていただくようによろしくお願いを申し上げておきたいと思っております。

さて、後ほど事業仕分けの議論をもう少しやらせていただきたいと思っておりますが、先にお

聞きをさせていただきたいと思いますが、今回の予算編成のプロセスで予算編成過程、ネット上でも公開をしていただきました。非常にわかりやすい部分もありましたし、課題もあったと私は個人的に考えておりますけど、公開の趣旨、目的、ご説明いただけますでしょうか。

◎奈良 財政課長 見える化の趣旨、目的でございますけども、予算編成過程のこの見える化は、予算の意思決定過程をオープンにすることによりまして、市民が市政を身近に感じてもらえる一つの手段であるというふうに感じております。以上です。

◆西 委員 本会議でも申し上げましたけれども、市民が市政を身近に感じていくためには、各論の細かいところを見せていただくのではなくて、まずは全容を見せていただかないと市民は市政を身近に感じることはできないと私は考えております。例えば、市政全体を見せていただくことと、今回の過程の趣旨の違いについて、非常に例えとしてわかりやすいかどうかはちょっと自信がないですけれども、今公開をされている現状というのは、日本地図全体を堺市に例えると、日本全体を見せるのではなくて、堺市の何町がどうか、福岡市の何町がどうかということだけが公開されていて、日本地図の形が見えないと。日本列島の形が見えないということが起きているんだと私は思っています。そういう意味では身近に感じるようにしていただくためには、まずその編成過程を一部の事業について公開をするのではなくて、事務事業全体をまずは大きく公開をしていただいて、そこから先に時間をかけてピントを細かくしていくという作業が必要だったのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎奈良 財政課長 今回の見える化につきましては、あくまで市長マニフェスト関連項目を中心に、特に政策的判断が必要な重点事業である項目を市民の皆様方にお見せしたというところでございます。確かに今回の見える化は、時間のない中で初めての試みであって、内容、手法につきましては、いろんな方のご意見を参考にしながら先進的な事例も参考にしまして、今後よりわかりやすいものにしていきたいと思っております。以上です。

◆西 委員 ぜひ改善をしていただきたいと思いますけれども、ところで、あの表を見ていてわからないことがありました。予算要求額と財政課長、財政局長そして市長査定、その3段階公開をされると。マニフェスト提示をされて、選挙を戦われていますので、マニフェストに基づいて市長が査定をされていくということは、あり得るかもしれま

せんけれども、財政課長と財政局長その2段階公開をされるという意味は何なのかをお示しいただければと思います。

◎奈良 財政課長　やはり予算過程そのままをお見せすることが、初めて市民の方が見たときに、予算はこういう形で決まっていくということをわかっていただくために、財政課長、財政局長、市長査定という段階で分けたものでございます。以上でございます。

◆西 委員　改善をしていただくということですので、各論議論はしませんけれども、私の思いとしましては、財政課長、財政局長トータルで、行政としての結論ですので、あの編成過程で公開をされるのであれば、行政としての結論、そして政治家市長としての結論、2段階でまずはよかったんじゃないかなと。あえて、課長と局長、2つ公開をされる必要性は余りなかったんじゃないかなと私は考えているということを少し申し上げさせていたいただきたいと思っております。

ところで、昨年、一昨年と総務財政委員会で議論させていただいておりますけれども、成果指標の重要性について特に行政評価の皆さんと、経営監理室の皆さんと議論させていただいておりますけれども、成果指標の重要性についていかがお考えかお示してください。

◎井野 経営監理室次長　成果指標についてお答えさせていただきます。成果指標につきましては、事業する上で、事業の目的でありますとか、どこをめざしているかというのは、当然はつきりさせていくべき、必要があると思っております。そういう意味で言えば、どの事業におきましても、成果指標というのは当然あるべきであろうというふうには考えております。以上でございます。

◆西 委員　すべての事業に関して成果指標は基本的にあるべきだとのお考えでよろしいでしょうか。

◎井野 経営監理室次長　はい。成果指標については、形態はいろいろあると思います。数値化できれば一番いいんですが、数値化できない場合は定性的な指標になることもあり得るかもわかりません。今のところまだ、堺市としてはそういった成果指標をきっちり示せてるところが少ないので、何とも言えませんが、それについてはまた来年度実施します総点検とか、行財政改革アクションプログラムの中で整理していきたいというふうな考え

ております。以上でございます。

◆西 委員　　そうしますと、少し知りたくなるのが、今回の予算編成過程公開のシートの中に、A4シートですけれども、成果指標、全く欄として記載がない。これは成果指標が重要と認識をしていただいているのかなと少し心配になりますけれども、いかがでしょうか。

◎奈良 財政課長　　予算上で、限られた財源を効果的に効率的に配分するには、やはり成果指標というのは重要な要素であると考えております。以上でございます。

◆西 委員　　ぜひとも成果指標について次からは公開をされるところに入れていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎奈良 財政課長　　先ほど申しましたように、成果指標がどういう成果指標を用いるかというところも踏まえまして、市民の方にわかりやすいような形でお示しできればというふうに思っております。今後検討課題であると思っております。以上でございます。

◆西 委員　　先ほど構想日本の件で申し上げましたけれども、構想日本の事業仕分けの定義の一つとして、成果指標について議論するところが入っています。事業仕分けをされるのであれば、少なくともすべての事務事業に成果指標があるべきだと思いますし、それに伴って次の予算編成過程においては、成果指標が当然載っているということだと思いますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

ところで、このような成果指標について、さまざまな今回の予算編成過程の資料をたくさん読ませていただきましたし、見せていただきましたけれども、ちょっと所管外の事業も取り上げさせていただきたいと思いますが、放課後学習事業、堺マイスタディ事業について、どのような成果指標をもとに記載をされたのかということが、この予算要求シートを見てる限りにおいてはわからないものの一つとしてありましたので、お示しいただけますでしょうか。

◎浦部 教務担当課長　　本市教育委員会といたしましては、堺マイスタディ事業に関しては、予算要求時においてA4シートである平成22年度当初予算の予算要求シートに、

事業目的、効果、事業内容、スケジュールを記載していますが、成果指標は示しておりません。本事業の目的といたしましては、放課後や長期休業中などを活用し、児童生徒の学びの状況に応じたきめ細かな指導を通して、一人一人の学力向上及び学習意欲の向上を図ることとしています。学力向上の効果は短期間でははかりにくいものですが、この事業を実施することで、児童生徒や保護者の声として、わからなかったところがわかるようになったとか、学習が楽しくなったとか、自分から進んで勉強するようになった等の効果が期待できます。来年度はモデル実施の検証を通して、より充実した事業となるよう努めてまいります。以上でございます。

◆西 委員　そこで経営監理室の皆さんにお聞きをしたいんですが、事業仕分けに当たって、成果指標が要するというのは先ほど申し上げたとおりです。このように成果指標、定量的な指標が余りないことは問題だと思われませんか。

◎井野 経営監理室次長　今委員お尋ねの件なんですが、確かに今現在、成果指標、すべての事業に成果指標があるかと言われますと、そういう状態ではないのは確かでございます。そういう意味で、今回、来年度ですけれども、総点検の作業を行う中で、また事業仕分けを行う中で、その辺については再度関係部局とも検討しながら、整理していきたいというふうに考えておりますので、よろしくご理解のほうお願いいたします。

◆西 委員　ぜひとも事業の総点検、さらには先日の委員会では市長はアウトカムとおっしゃってましたから、しっかりと指標について議論をしていただきたいと思えますし、それが当然事業の総点検の大前提なんだと思えます。予算をどのように、あれもこれにもつけることができないのは、もう皆さん御存じのとおりでございますから、あれかこれかを選択していくに当たって、この事業のためにこの予算を使うほうがいいのか、それとも違うことのために予算を使うほうがいいのか。それが政策目的にどのように生きていくのか、議論するためのものが実は事業仕分けと通ずるものですから、ぜひとも指標を示していただきたいと思えますけれども、教育委員会から成果指標を示していないとの答弁がありましたけれども、経営監理室のほうでは成果指標をもっとちゃんとつけていかなければとお答えをいただいたように思えますけれども、財政課のほうでは、成果指標のない事業を予算化されたということでもよろしいでしょうか。

◎奈良 財政課長　財政当局といたしましては、確かに成果指標は今回のA4シートに

は記載されていないというふうに認識をしております。しかし、当該事業につきましては、新規事業でございますから、どのような効果が期待できるかということなどをヒアリングをしております、それをもとに議論をした結果、予算計上したものでございます。以上でございます。

◆西 委員 ぜひ、その根拠を予算編成過程に公開をしていただきたいと思います、予算計上の経過についてもご説明いただきたいと思います。

◎奈良 財政課長 マイスタディ事業の予算計上の経過でございますけれども、当初の要求は全小中学校で週1回の自習を中心とした要求でございました。その予算編成過程の中において、さまざまな議論をした結果、小学校で30校、中学校で15校、全体で3分の1の小中学校におきまして講師がカリキュラムに沿った補習をモデル事業として実施するというような要求に変わったものでございます。したがって、財政課長、財政局長の段階では予算査定を保留しております、市長査定の段階において予算計上したものでございます。以上でございます。

◆西 委員 この予算編成過程公開のプロセスにおいて、このような質問をしていいのかわかりませんが、あのよう公開をされますとお聞きをしたくなるのは、財政課長、財政局長が保留をされて、市長が予算計上される。つまり、なぜ財政課長、財政局長は保留をされたのでしょうか。

◎奈良 財政課長 先ほど申しましたように、まず全校実施というようなことではなかったので、新規事業でございますから、本当に教員を確保できるのか、あるいは参加者が多数出るのか、効果があるのかというところから議論を進めておりました、財政局長までの段階では保留後に予算要求が変更になったということでございます。以上でございます。

◆西 委員 ごめんなさい、財政局長としていかがですか。

◎五嶋 副市長 今、財政課長が申し上げたとおりでございます。もともとの要求内容は週1回の自習を中心とした事業ということになりますと、放課後ルームですか、現在もそういったものもございますし、そういったものの仕分けとか、仕分けというか役割分担とか、そういったこともいろいろあるかと思えます。そういったことで、また市長のほうで、マニフェストでうたったものも、趣旨としては、どちらかという自習じゃなくてやっぱり講師がいて、きちんと教えていくと、そういったものを趣旨としているということでもございましたので、求めている内容がちょっと違うであろうということで、私の査定の段階では議論をしておいたという状況でございますので、保留ということにした次第でございます。

◆西 委員 ありがとうございます。財政課長と財政局長が保留されたということですが、財政課としては具体的な成果として何を考えたのかをお示しをいただきたいと思えます。どうもこの種の議論は、このマイスタディの事業に関しても、議会も含め巷間など、いろんなところで議論がなされておりますけれども、何のためにやるのか、だれをターゲットにするのか、どのように成果を上げていこうとしているのか、そういうことが皆さん解釈がばらばらになっていて、何のためにやるのか。やはり成果指標が示されないから議論が発散をしているというような状況があるように感じますけれども、財政課として具体的な成果とは何と考えたのでしょうか。

◎奈良 財政課長 教育委員会からは確かに定量的な成果を示せないというように聞いております。確かに放課後学習事業につきましては、過年度から取り組んでおります学力向上施策の一環ということでございまして、今後3年間の間に具体的にどのような成果があるかということは、効果を求めていきたいというふう考えております。以上でございます。

◆西 委員 少し疑問があるんですけど、最後まで申し上げませんが、指標が示されないまま予算がつけられていく。非常に違和感があります。マニフェスト項目であれば、成果指標もなく予算計上されたのかなと思えますけど、いかがでしょうか。

◎奈良 財政課長 マニフェスト項目ということだけで予算化するということにはございません。やはりその財政課長、財政局長、市長査定と各段階において、さまざまな議論をしておりました。堺市におきましては、小中学校の生徒、児童の学力向上というものが以

前から課題であるというふうに聞いておりました。それを向上するための一つの施策として新規事業という形で今回予算計上したものでありまして、人口誘導の観点からも、今回資するものではないかということで予算計上したものでございます。決してマニフェスト項目ということで予算計上したものではありません。以上でございます。

◆西 委員 つまり、そのようなまだ内容に少し不満はありますけれども、どういう人をターゲットにして何をどうしていこうとしているのか、指標が全くこのA4シートに記載をされていないと。今お示しをいただいた内容は少なくとも、A4シートに記載をしていただくということをぜひお願いをさせていただきたいと思えます。結局、重要だからつける。その成果指標のために幾ら要るかという議論ではなくて、大事だから大事なんですかみたいな予算のつけ方がされるんじゃないかという懸念を持つところでもあります。そういう意味では、成果指標をもとに効果の高い事業にしっかりと予算を投入していくということが私は必要だと考えておりますし、これは従前より議論をさせていただいて、当時の総務局長、今副市長さんですけれども、成果指標の重要性についてもお答えを再三いただいとるところであります。すべての事務事業について、ぜひとも成果指標、定量的な成果指標を導入していただいて、そしてそれを予算要求シートにしっかりと公開をしていただく、お願いをさせていただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

◎奈良 財政課長 予算と成果指標の関連でございますが、事務事業の総点検も踏まえまして、今後どういうやり方がいいのかと、予算計上についてどういうやり方がいいのかというものについては検討させていただきます。以上でございます。

◆西 委員 ぜひ総務局長である副市長にお聞きをさせていただきたいと思うんですが、これまでの議論とも重複する部分が多々ありますけれども、やはり経営監理室の皆さんが成果指標は要るとおっしゃっていただいているのにもかかわらず、そこは連動していないということに少し違和感を感じるんですが、他市では、例えば財政課の中に両方、評価部門と予算編成部門、同じフロアで隣同士で席が合わさっているということも多々あると聞きます。こういう意味では、予算をつけてそれを評価していく。同じところで活動していただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

◎芳賀 副市長 今、ご質問がありました。財政課のほうは従来から財政の考え方で、今回改めて見える化ということで数値化に取り組んだ。経営監理室はいわゆる事務事業評

価だとか、あるいは事業仕分けとかに新たに取り組んでおります。経営監理につきましては組織的に、財政局に行ったり総務局に来たり、どっちがいいかということで我々も非常に悩んでる部分がございます。ただ、どちらにしましても、市長が言うところの見える化と言いますか、説明責任を果たす、これについては一緒でございますので、組織を離れても連携をして見える化を図っていきたい。もちろん、数値化についても、わかりやすい数値化に努めていきたいというふうに思っております。以上です。

◆西 委員 ぜひ連携をして取り組んでいただきたいと思います。

さて、事務事業評価に当たってお聞きをさせていただきたいと思いますが、先ほど申し上げましたとおり、堺の地図、日本地図に例えて申し上げましたけど、日本地図の中で堺の地図、福岡市の地図とか、部分的に公開をするのではなくて、まず全体像を示していただくべきだと私は考えておりますが、事業の総点検、市長も言われてますけど、どのように進めようとしているのかお示しをいただければと思います。

◎井野 経営監理室次長 委員お尋ねの事業の総点検の進め方についてお答えいたします。総点検の具体的な進め方といたしましては、まず個々の事務事業について、調書を作成し、業務内容、目的、必要性、緊急性、リスク、コスト、プロセス、あと経営資源でありますとか、実績など、こういったものを市民の視点、つまりサービスの受け手の立場に立った点検を行うというふうに考えております。現在パブリックコメントを行っておりますが、その行財政改革アクションプログラム案ですけれども、これにおいても提示しておりますが、今後の改革の第一歩はやはり行政の仕事、事業の内容等を透明化して市民にわかりやすく説明できるようにすることであるというふうには考えております。

ご質問の事務事業の全体像の提示でございますが、これにつきましては、今後事業の総点検の作業の中で、先ほどもご説明させていただいたように整理をさせていただいた上で、来年度中には市民の皆様にお示ししたいと考えております。

また、先ほどから言われてます成果指標につきましても、この辺につきましては、まだ決定ではありませんが、総点検の中で例えば事務事業の総点検の調書の中に指標を設けるであるとか、そういったことも当然検討はさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◆西 委員 ぜひ来年度中にまずお示しをいただけるということですから、よろしくお願いをさせていただきたいと思います。そして、最後にお尋ねをさせていただきたいと思いますが、この事業評価シートにはどのような項目が載ってこようとしているのかお示し

をいただければと思います。

◎井野 経営監理室次長 先ほどちょっと簡単にはご説明させていただいたんですけれども、今のところは業務内容とか目的でありますとか、その事業の必要性、緊急性、その事業が抱えているリスク、コスト、それと当然その事業を行う上でのプロセス、あと経営資源、また実績等を今のところは、先ほど言いました成果指標、この辺についてはまだ載せるというふうには決めておりませんが、そういったもろもろのものを調書として作成したいというふうには考えております。以上でございます。

◆西 委員 ぜひお願いをさせていただきたいと思いますが、1点少し通告を簡単にしかしてませんので、細かくは通告はできてませんが、ご提案をさせていただきたいと思うんですけれども、堺市は環境モデル都市ですので、財政のほうでは従前より提案をさせていただきました二酸化炭素の見える化と言いますか、S-EMSと連動したモニタリングということも予算としては、今回つけていただいて取り組んでいただくということですので、事務事業評価シートの中に、二酸化炭素、少なくともこの事業をしたらどれくらい排出しようとしているのか、例えば環境家計簿においては二酸化炭素を一定程度計算をしていく、正確ではないにしろ、目安の計算をしていくという仕組みは徐々に研究をされてきているところですから、事務事業をやるに当たって、まずは二酸化炭素、どれくらい排出されているのか、もしくはされるのか、見える化をしていただきたいと思います。もし可能であれば副市長お答えいただければと思います。

◎芳賀 副市長 お示しのように、環境モデル都市は私ども市も非常に標榜して、力を入れている部分でございますので、よく勉強して、わかるような形で取り組んでまいりたいというふうに思っております。以上です。

◆西 委員 突然の質問にも関わらずお答えをいただきましてありがとうございます。これもちまして私の質問を終わります。